

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

※協議会員数 17名
公民館長、民生児童委員（3名）
地域づくり協議会会長、老人クラブ支部長
区長会長、同窓会長、体育協会長
松木神社奉賛会長、見守り活動代表
PTA 会長、副会長、学校代表（3名）

※地域コーディネーター（1名）
熊川公民館長

(2) 協議会の内容

- ① 第1回協議会（5月）
・スクールプラン、学校評価計画について
- ② 第2回協議会（2月）
・学校評価と学校改善について

(3) 協議会における成果と課題

子どもの安全や地域と進める体験活動を中心に協議を進めた。登下校の見守りや挨拶運動に地域の方が積極的に関わってくださったことで、しっかりとした挨拶ができるようになった。今後も、地域の教育力をさらに活用し、子どもたちの豊かな人間関係構築力の育成につながるよう、本協議会での意見を日々の教育活動に活かしていきたい。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

近江と若狭の境に位置する熊川宿は、鯖街道の中継地として江戸時代に発達した宿場町である。古くから継承してきた文化や行事が数多くあり、地域を愛し、伝統を守り後生に伝えたいと思う方々が熱心に活動されている。この事業を通しふるさとに対する誇りや愛着を高めるために、地域の自然や人々との関わりを通して地域の持つ課題を見つけたり解決したりする体験活動を充実させる。

(2) 活動の実際

① 「野菜作り、米作りを学ぼう」



今年度から地域の方に田圃を借り、田植えと稲刈りの体験をさせていただいた。昔と今の方法をどちらも体験し、米作りの大変さを学ぶとともに、地区に休耕田が増えていることを知り、ふるさとの農業の課題について考えることができた。また、地域の特産物である自然薯栽培にも関わらせていただき、地域の方々の生産の苦労や喜びを味わうことができた。地域の方々の協力でできた学級園でサツマイモを作り、地域のイベント「熊川いっぷく時代村」で販売し、観光客とも交流を持つことができた。

② 「熊川宿の語り部をしよう」

例年、地域イベントである「熊川いっぷく時代村」において、熊川について調べた内容についてPR活動を行っている。今年度は、このイベントに多くの方が来ていただけるよう事前に小浜市や京都駅でもPR活動を行った。発信力を育成すると共に、コミュニケーション力を高めるこ

(様式3)

とができた。

イベントでは地元の名産品である「長操あめ」を販売した。販売する長操あめは、地域の方々に講師として来校して頂いて自分たちで制作した。販売品には、熊川の紹介メッセージや学校紹介のパンフレットを添えた。毎年児童の活動を楽しみに訪れる人も多く本活動を通して児童は地域の一員としての自覚をさらに高めることができた。



③「ボランティア感謝の集い」



年間を通してお世話になった地域の方々に感謝の気持ちを伝える会を行った。平日の昼間にも関わらず、50名のボランティアの半数が集まってくださった。児童は、休み時間も自主練習を重ねた合奏を披露した。その後、一人一人に感謝の手紙を読み、ボランティアからも一人ずつ感想や児童に対するメッセージを発表していただいた。児童は、地域の方々が持つ熊川に対する熱い思いに触れ、自分たちも地域の一員として熊川を盛り上げていこうという思いを新たにしていた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

地域の産業や行事に携わっている方を紹介いただいたり、地域行事と学校行事を兼ねられるように計画していただいたり、地域との橋渡し役として学校を支えていただいた。小規模校で職員数も少ないため、どの活動においても多くの人員を確保していただき事前準備をきちんと行ってくださった。

(4) 特に工夫した事項

- ・「活動2」で、熊川宿について調べた内容を発表する場をイベント日だけでなく事前に2回設けた。小浜市と京都駅は観光客も多く、発信力を高めるのに役立った。
- ・「活動3」で、地域の方々の思いを聞く場を設けた。25名全員のメッセージは聞く時間が長かったが、地域や学校に対する思いが溢れていて児童は最後までしっかりと聞いていた。

(5) 成果と課題

「活動2」は、熊川地区区長会長から地域の一員として熊川を盛り上げる活動を行ってほしいという要請を受け、活動がスタートした。それまでも各イベントで児童の活動場面はあったが、お手伝い的な要素が強かった。今年度は地域のために自分たちが任されたという意識が高く、主体的に色々なアイデアを出しながら活動できた。長い間同じ活動を続けているとこなすだけになることもある。地域の方に、活動のねらいや児童に育てたい力をしっかりと伝えるようにすることが大切である。

次年度は、児童に育てたい力に照らして今ある多くの行事や活動を精選し、効果的に活動を行っていききたい。